

Economic Indicators

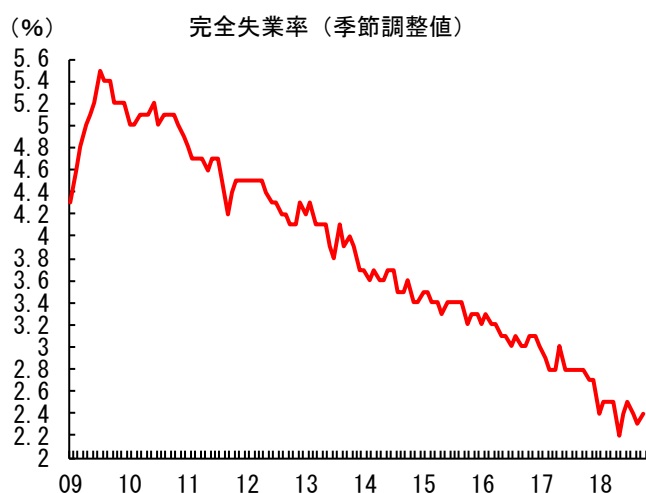
発表日: 2018 年 11 月 30 日 (金)

労働力調査・一般職業紹介状況(2018 年 10 月)

～求人数に頭打ち感。先行き雇用の増勢が鈍化する可能性も～

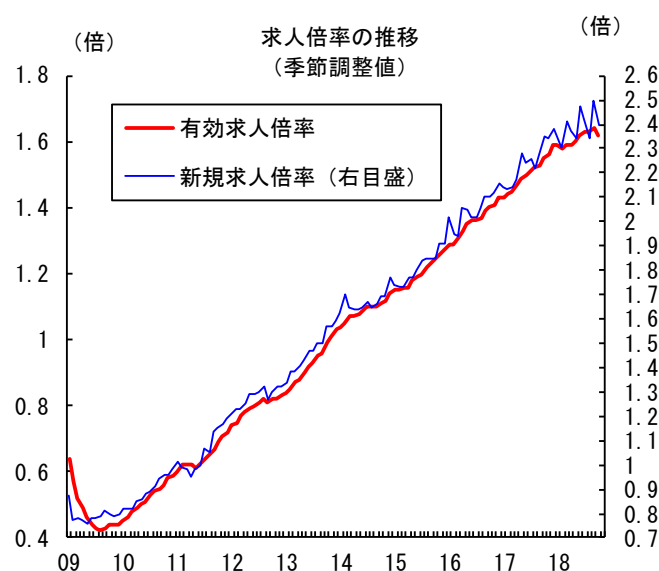
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL: 03-5221-4528)



(出所)総務省統計局「労働力調査」

(注)2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



(出所)厚生労働省「一般職業紹介状況」

○ 労働需給の逼迫が続く

総務省から発表された2018年10月の完全失業率は2.4%と、前月から0.1ポイント上昇した(市場予想: 2.3%)。ただ、今月は就業者数、雇用者数とも増加した一方で労働市場に参入した人が増えたことにより失業率が悪化した面が大きく、内容は悪いわけではない。2.4%という水準自体も非常に低く、労働需給が逼迫している状況に変わりはない。

季節調整済みの就業者数は前月差+23万人(9月+3万人)、雇用者数は前月差+19万人(9月▲19万人)となった。7-9月期については、就業者数が前期差▲12万人(前期比▲0.2%)と2015年4-6月期以来の減少、雇用者数も前期差+10万人(前期比+0.2%)と伸びが鈍化していたが、これは18年1-3月期、4-6月期に急増していた反動が出た面が大きかったものと思われる。10月の増加も併せて考えると、雇用は着実な増加傾向にあると評価して良いだろう。

○ 求人倍率は引き続き高水準だが、求人数に頭打ち感

一方で気になったのが求人の動向である。厚生労働省から公表された18年10月の有効求人倍率は1.62倍(9月: 1.64倍)と前月から0.02ポイント低下、新規求人倍率も2.40倍(9月: 2.50倍)に低下している。有効求人倍率の低下は18年2月以来のことである。

また、有効求人数も前月比▲0.5%(9月▲0.4%)と小幅ながら2ヶ月連続の減少、新規求人数も前月比▲0.2%(9月+1.7%)と微減となった。求人数については17年中は速いペースで増加してき

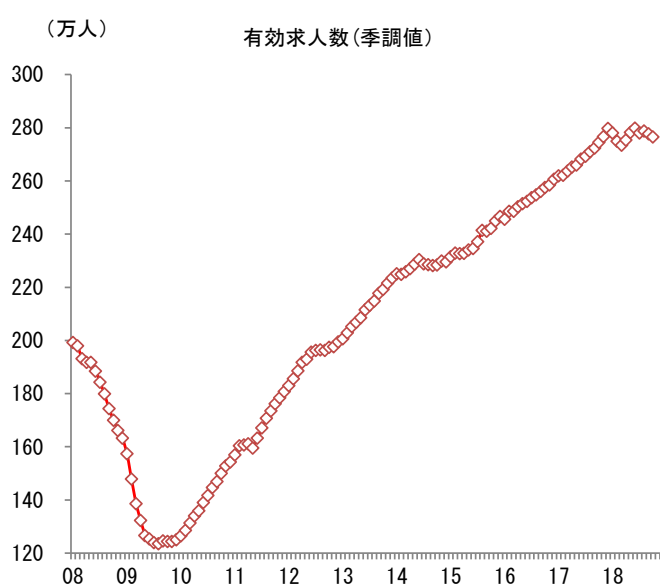
たが、18年入り以降は明らかに増勢が鈍っており、横ばいといっても良い状況になってきた。実際、18年10月の有効求人数の水準は18年1月の水準を0.6%Pt下回っている。有効求人数を四半期でも、18年1-3月期に前期比▲0.5%と減少に転じた後、4-6月期が前期比+0.8%、7-9月期は前期比+0.1%、10月の水準の7-9月期比は▲0.6%と、18年入り以降は一進一退の動きとなっている。18年に入ってから、鉱工業生産で足踏み感が生じていることが影響している可能性が高いだろう。前述のとおり雇用者数は現在好調な推移を続けているが、求人数は雇用者数の先行指標だけに気にかかる。今後も景気の足踏みが続くようであれば、雇用の増勢にも陰りが出てくる可能性があることに注意しておく必要があるだろう。



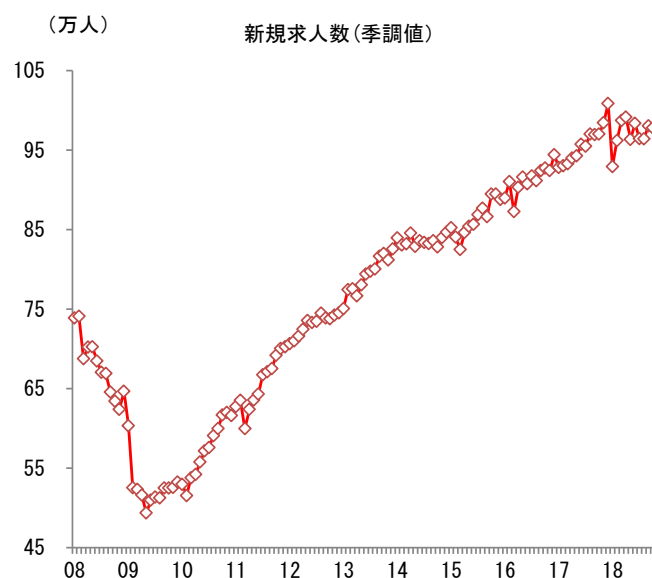
(出所) 総務省統計局「労働力調査」



(出所) 総務省統計局「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

